



第 53 号

編集・発行

社会福祉法人

沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1

TEL 098-884-3173 (代)

FAX 098-882-5688

電子メールアドレス：o.fukusi@okinawa-j.jp

ホームページ：http://www.okinawa-j.jp/



具志川厚生園(テイサービス)
生活相談員 花城裕康

平成22年2月16日(火)・
17日(水) 両日にミニテイ
サービス(金武町総合福祉
センター内)の見学に行って
来ました。ドライブ途中に
車を止めて桜も見てしまし
た。

お花見に行ってきました



役職員の皆様には、お健やかなうちに新しい寅年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

古来トウは多くの俗言が語る通り、頑健で猛々しいその勇姿は、一種の憧れとして人々に親しまれてきました。

我が事業団も、その勢いにあやかり、平成二十年からスタートした経営五ヶ年計画の実現に向け、役員一丸となつて邁進したいと思ひます。

私が若い頃、先輩方からくり返し聴かされた言葉に「親しめども狎(な)れず」というのがあります。仕事に親しむのは良いが、ナレ過ぎるとマンネリ化に陥る事を戒めるものです。

今日、社会福祉ニーズは、個別処遇対応への要請を受け、多様で質の高いサービス提供能力の向上が急務となっております。

新生社会福祉事業団の構築に向け、職員各位の一層の奮起と深化を期待しています。

新年度の始めにあたり、利用者の方々の安寧と役員みなさまのご健康を祈念し、ごあいさつとします。



ごあいさつ
 ～新年度にあたり～
 理事長 呉屋 清徳
こや せいとく



職員研究発表会及びQCサークル活動発表会報告

平成二十二年一月二十九日(金)職員研究発表会及びQCサークル活動発表会が、沖縄県総合福祉センターにて約百五十名の参加者が集い開催されました。

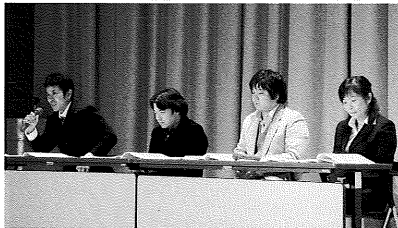
午前中は、特別講演に當間武三さんをお招きして「踊り跳し、四十三年」笑う門に福来たるの演題で講演をしていただきました。講演後には一人芝居を鑑賞しましたが、そのユーモアにあふれた名演技にホールは大きな笑い声に包まれました。

福祉制度が大きく変化する中で、なお一層サービスの質の向上が求められていますが、日常業務の中ではつい笑顔を忘れてしまいがちです。今回の講演を通して笑いの中から相手を思いやる基本姿勢を見直し初心に戻るきっかけとなったのではないかと思います。

☆研究発表

- ①「施設内自立に向けて」
健康管理と小遣い使途についての取組
いしみなね救護園 介護員 阿波連園江
- ②「認知症の周辺症状軽減への試み」
名護厚生園 介護支援専門員 具志堅豊

介護員 岸本兼武



- ③「利用者本位の排泄ケアを目指して」
一人ひとりにあつた排泄ケア
具志川厚生園 介護員 仲元浩哉

☆QCサークル発表会

- ①「楽しく全員参加ウォーキング実施にむけて取り組み」
あけぼの学園 生活支援員 宮里幸代
- ②「入浴時の作業効率の向上」
利用者の安全・安心を守り、
効果的ふれあい入浴を目指して
八重山厚生園 介護員 崎原忍

発表会後には、質疑応答が行われ、各施設の現状や課題について事業団全体で共有し知識を深める事が出来今後の糧となったことと思います。

また、助言者には北中城若松病院、認知症研究室より大久保千賀子様、人事・教育研究所の地下恵昇様にお越し頂き専門的な立場からきめ細やかなご助言と講評をいただきました。

全国救護施設研究協議大会参加報告

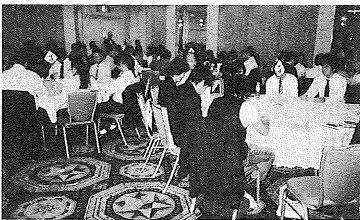
救護施設 よみたん救護園
生活指導員 名嘉 克文

平成二十一年十月一日から二日までの二日間、岡山県にて開催の第三十四回全国救護施設研究協議大会に大湾園長、介護員の大城秀夫さんと共に参加させて頂きました。

当日は、全国から救護施設の関係者五百余名の方が参加し、救護施設の課題等に真摯に討議が重ねられました。また、全救協森会長による救護施設を取り巻く現状等の基調報告、厚生労働省金井課長補佐による行政説明、社会福祉法人旭川荘名管理理事長江草先生の特別講演や、上村医師による十代の性を考える講演等内容が豊富で、たくさん事を学ぶことができました。

今大会は、主催した岡山県関係者の尽力で運営がとてもスムーズであり、職員を随所に配置する等細かな点にまで気配りが行き届いていました。今年十月には、沖縄県で全国大会が開催されます。

更に実り多い大会となるよう事務局を中心に両救護施設、また、事業団全体で、全国の救護施設関係者を温かくお迎えしたいと思っております。



ISO9001研修会報告

事務局 企画課長 井口 智

昨年十二月十一日江戸川光照苑の水野敬生苑長をお招きして「社会福祉施設におけるISO9001認証取得とその意義について」と題しまして県社協・県老人福祉サービス協議会との共催で研修会を総合福祉センターにおいて開催いたしました。

「マネジメント」「プロセス」「レビュー」等のカタカナ表現や建築・製造業界で使用されている難解なISO用語を水野苑長はわかりやすい解説で介護現場における福祉サービスと関連して講義なされISOについて理解を深めることができました。また、参加者からは「業務の標準化(マニュアル化)の重要性を再認識できた」「自施設でもマニュアルはあるが、PDCAサイクルが機能していない。見直しや改善の必要性を実感した」等の感想が寄せられました。

当法人の事務局と沖縄療育園でISO9001の認証取得に向けて取り組んでいるところでありますが、認証取得をゴールとするのではなく、サービスの質を向上させ、それを維持し問題点を継続的に改善して行くためのスタートと考えて取り組んでまいります。



「全国婦人保護施設等 指導員研究会の参加報告」

婦人保護施設 うるま婦人寮
生活指導員 多和田 綾子

去る平成二十一年十一月十二日から十三日に神奈川県横浜市で「第二十八回全国婦人保護施設等指導員研究協議会」が開催され、全国各県の施設から百名余りの職員が参加しました。初日はフリー・ソーシャルワーカー宮本節子氏の「売春防止法と婦人保護事業」職務の困難性はどこにあるか」をテーマにした基調講演、次に厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課の阿部浩係長による行政説明が行われました。二日目は三分科会に分かれ、私は第三分科会「精神的な問題を抱える利用者の支援」について汐田ヘルスクリニック所長の野末氏による講義を受け、社会生活状況面接のビデオを鑑賞し、個人ワークで面接演習を行いました。

江戸川光照苑研修報告

養護・特別養護老人ホーム八重山厚生園
介護員 古見 嘉浩

平成二十一年にISO9001認証取得した東京の江戸川光照苑で業務の標準化や手順書の作成について理解を深める目的で名護厚生園、具志川厚生園、宮古厚生園、八重山厚生園から四人が期待と不安を胸に二月一日から五日間の日程で派遣研修に参加しました。初日、江戸川光照苑と平成十四年にISOを取得している王子光照苑の施設を見学し、歓迎会では、認証取得時の苦労話の中で水野苑長は、「大変だけれども誰かがやらなければいけないんだ」と話されていました。二日目からは、各フロアーに分かれ体験実習を行いました。朝礼では理念や方針、マナーとは何かを全員で復唱し職員一人一人が施設の目指している方向性、利用者様の為に何が大切かを確認し合いました。その中で基本的な積み重ねが利用者様に対する言葉遣いや接し方に繋がっていると実感しました。又同苑は、ボランティアなどの社会資源を有効に活用し施設を知っていたべく事により、地域との密接な連携に繋がっていました。研修で学んだ事を活かして、利用者様に満足していただける様これからも頑張りたいと思います。



施設長リレー エッセイ



私の「旅」

婦人保護施設 うるま婦人寮
寮長 小渡 利枝子

高校時代（祖国復帰前）にインターハイ参加のため金沢へ行き、その行程で沖繩に無い景色を目の前にして惹かれ、「旅に出たい。いろいろな土地へ出かけ沖繩にない自然にふれたい。」との思いは心の中で日々強くなりました。学生時代には、友人と二人でリュックを担いで、ユースホステルを利用しての東北一周の旅に出ました。強く印象に残ったのは黄色一色や赤や黄色が混ざった鮮やかな紅葉と十和田湖から流れ出る奥入瀬を歩いたことです。余談ですが、その時弘前の宿で知り合っていた奥入瀬を歩き休屋の宿まで一緒だった一人旅の大阪の同い年の女の子とは今も交流が続いています。

仕事に就いてからは、沖繩では見られない自然への憧れは募り、まとまった休みをどうにか作って、尾瀬・立山・飛騨・高山・黒部ダム・北海道の原生花園や北方領土の歯舞が見える納沙布岬・最北端の宗谷岬を歩きました。そして、国内にとどまらずカナダのコロンビア大氷原・ナイヤガラの滝、チベットへも出かけました。また、私の「旅」は、小説島崎藤村の「夜明け前」に出てくる妻籠・馬籠では小説の背景の残り香を探しながらの散策、歴史の舞台に出てくる京都・奈良の名所・

旧跡を巡り、はるか万葉の時代に思いを馳せたり、日本に仏教伝来以前にゾロアスター教が入っていたという大胆な仮説に基かれた、松本清張の小説の舞台に出てくる飛鳥路の酒船石・石舞台、発見されたばかりの高松塚古墳等遺跡を一人オリエンタリング感覚で散策しました。

このように、私の「旅」は、大いなる自然の一端に触れたい、直に見たいの思いや、歴史や小説の舞台等に出てくる場所を直に見たい、その場所に立つてみたいとの衝動に突き動かされて始まり、改めて自然の偉大さ、歴史や小説の人物の生き方に近く迫ることができ、自然の中で、「今」という社会の中で生かされている「私」を強く感じ、「生」のエネルギーが満ちあふれてくるのを実感し、「さあ、また私も前へ歩き出そう。」と前向きな気持（精神）が再び得られて、いつもの日常へ戻ってくるのです。



五稜郭跡



剣山頂上



定年退職を迎えるにあたって



救護施設 いしみね救護園
園長 大嶺 利昭
おのみね としあき

定年を迎えこれまでの三十三年の歳月が感慨深い。昭和五十二年三月一日沖繩療育園の介護職を皮切りに、事務局や八重山での単身赴任を含めて七つの施設を経験させて頂きました。

それぞれの勤務先でよき上司や諸先輩同僚に支えられ、また、多くの利用者との出会いに励まされて大過なく節目を迎えることができたことに心から感謝いたします。

たくさんさんの思い出の数々、利用者の明るい笑顔や職員の姿に教えられ培われた貴重な体験は私の事業団人生の大きな財産であります。

事業団施設の健全経営と施設利用者への安心・安全・快適で生き甲斐のある生活の場であることを心から願っております。

最後に当法人のキャッチフレーズである「明るく楽しく夢のある事業団」として益々充実発展することを祈念いたします。

皆様のご厚情誠にありがとうございます。



養護 特別養護老人ホーム 名護厚生園
園長 上間 亨
うえま とある

昭和五十二年四月に社会福祉事業団に採用され、屋良朝苗知事より辞令を受けたのが昨日のことのように脳裏に浮かんできます。よみたん救護園をスタートに、都屋の里、具志川厚生園、沖繩療育園、事務局、都屋の里、いしみね救護園、北嶺学園、名護厚生園、八重山厚生園と勤務し、現職場を最後に定年を迎えることになりました。

我が事業団人生は、よみたん救護園の増築に始まり、沖繩療育園の一病棟改築、都屋の里、八重山厚生園の全面改築移転と施設の増改築に関われ重責であったが充実した日々が送れました。これもひとえに多くの上司のご指導や諸先輩・同僚たちに支えられ、無事三十三年間の職を全うすることができました。心より感謝申し上げます。

最後に、事業団のさらなる発展と職員、利用者のご健康を祈念し挨拶いたします。



養護 特別養護老人ホーム 宮古厚生園
園長 平良 洋治
たいら ひろじ

昭和五十二年二月あけぼの学園の開設に伴い、事業団に採用されてから三十三年光陰矢の如しである。出納員に命じられるもソロバンも使えず、複式簿記が何かも分からず重責である会計業務を担ってこれたのも、OB先輩方の指導と同僚の支えのお陰である。

振り返ると、事業団変革時の昭和五十八年にいしみね救護園へ単身赴任をし、本島施設職員との出会いや様々な交流を重ねたことがかけがいのない財産となつている。

また、事業団労組の役員として団体交渉、平和運動、民営化問題等の組合活動に取り組んだことが転機となつたことが思い出される。

退職をするにあたり、事業団が更なる健全な経営を推進し、利用者へ安全で安心したより良い専門性のあるサービス提供を充実させ、地域から信頼される施設として発展することを祈念すると共に、これまでご厚情を頂いた皆様に深く感謝します。



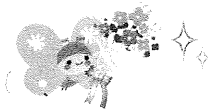
児童養護 知的障害児施設 漲水学園
保育士 下地 美佐子
しもじ みさこ

昭和四十七年三月に、宮古で初めての県立児童福祉施設として開園した漲水学園に、保育士として採用され、不安と喜びに胸躍らせていた日々を思い出します。あの日から、「光陰矢のごとし」定年を迎える事になりました。

漲水学園の園児からは、たくさんさんの勇気と感動をもらい、あけぼの学園の園生からは、一生懸命に頑張る姿に感銘を受け、自分の仕事の糧となりました。この三十八年間の思い出が走馬燈のように渦まいて今日この頃です。

未熟な私を今日まで支えて下さった職員の皆様ありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱい입니다。

最後に、社会福祉事業団のご発展と皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。





身体障害者療護施設 都屋の里
生活支援員 松田 節夫

昭和五十一年一月五日付けで都屋の里配属の辞令を受けて、一月二十五日開所に向けて環境整備からのスタートでした。福祉関係の仕事に就くのが初めての職員が多く、全職員が手探りの状態で利用者への支援を行っていたことが思い出されます。あれから、三十年余りの年月の間に知的障害者・婦人・救護・老人施設と転勤し、定年を迎えた今年は最初に配属された都屋の里で迎えられることは、大変嬉しく思われます。



事業団も平成十八年に民間法人として大きく転換して大変な時期、これからも、全職員が一丸となつてよりよい利用者支援に努められるよう頑張つて下さい。



身体障害者療護施設 都屋の里
介護員 小谷 良竹

平成二十二年三月三十一日をもちまして、都屋の里を最後に定年致しました。

昭和五十三年一月、都屋の里採用をかわきりに、よみたん救護園、具志川厚生園、沖繩療育園、よみたん救護園、名護厚生園と勤め、それぞれ赴任先での温かい出迎えや上司の御指導、さらに新しい同僚との出会いや再会、又、利用者個々の特徴、表情等懐かしさを覚えている所です。これまでの三十二年間、利用者支援を通じて得たものも多々あり楽しく職務に就くことができた事に感謝いたします。



近年、少子高齢化社会の到来により財政、福祉等、社会環境の変化に伴い施設ニーズの高まりと、質の重要性が求められる社会福祉事業団に対する期待も高まるものと思われま

名護厚生園訪問介護事業のご案内

名護厚生園指定訪問介護事業所は、お客様個々の自己選択・自己決定を尊重し、その人らしい尊厳ある日常生活が送れるよう、共に考えながら日々のサービス提供に努めています。

一、サービス内容

【訪問介護事業】

ホームヘルパーがご自宅を訪問し、介護支援専門員が作成するケアプランに基づいて、食事介助・排泄介助・入浴介助等の『身体介護』と、掃除・洗濯・調理等の『生活援助』を提供し自立した日常生活を送れるよう支援するサービスです。

【介護予防訪問介護事業】

要支援1・2の認定を受けている方のご自宅へ訪問し、介護支援専門員が作成するケアプランに基づいて、状態の悪化を出来る限り予



防し、生き生きとした日常生活を営む事を支援する事業です。サービス内容は訪問介護と一緒にですが、ご利用者が出来ない事を補うサービスでは無く、出来る様になる事を目指し支援します。

二、訪問介護サービスを利用するには

市町村が要支援・要介護と認定した在宅で生活されている方であれば、訪問介護をご利用する事が出来ます。

三、営業日

○営業時間

月曜日～金曜日

午前八時半～午後五時

○休日

土曜日・日曜日・祝祭日

※但し利用者へのサービス提供は休日無しの午前七時～午後十時まで対応させて頂いております。

☆ご相談、お申し込み等のお問い合わせは左記までご連絡下さい。

電話 ○九八〇(五一)一六四四
担当 荻堂盛路(サービス提供責任者)

緊急報告!

「ISO9001・2008」 認証取得!

昨年四月にキックオフ大会を開催して当事業団事務局と沖繩療育園でISO9001の認証取得に向けて取り組んでまいりましたが、審査登録機関による一次、二次審査を経まして平成二十二年三月十五日に品質の国際規格「ISO9001・2008」の認証を取得いたしました。

ISO9001とは品質マネジメントシステムのことで、元々は工業製品等の品質を管理するシステムのことでしたが、近年は役所等の行政組織やホテル、病院、福祉施設でも同システムを導入して業務を標準化し、より質の高いサービス(品質)を提供するためのシステム運用が行われるようになりました。当事業団の職員一人ひとりがこのISO9001の認証取得の意義を理解し、真に施設ご利用者にご満足して頂く(顧客満足)とともに、ご期待を超えるサービス提供の実現に努力を重ねてまいります。今後は更なる利用者サービスの向上を目指して他施設への導入・運用を計画しております。(ISO事務局)



施設サービスアンケート調査結果

当法人では施設で提供している福祉サービスの質の向上と、より快適に利用していただけるための資料とするため、利用者様とご家族より毎年アンケートを頂いております。(平成21年度アンケート集計結果表参照) ご意見を基に改善に向けて取り組んでまいりますので、今後もご指摘、ご指導をお願い致します。

平成21年度 施設サービスアンケート集計表 (12施設)

Table with columns: 施設名, 項目, 評価 (回答者), 回収数. Rows include various facilities like 沖繩療育園, 漲水学園, あげぼの学園, etc., with detailed survey results for each.

平成20年度結果 (参照)

Summary table for Heisei 20 survey results, showing counts and percentages for users and families across various categories.

利用者の趣味特技について

養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園
比嘉 康浩



みなさん、こんにちは初めに私の自己紹介をしたいと思えます。

生まれは、昭和二年一月十六日生まれの八三歳です。私は平成四年に具志川厚生園に入所しました。

車椅子生活ではありますが、自分で車椅子自走し施設内を移動しています。身の回りの事は出来る限り自分で行い、職員の手助けで入所生活を送っています。言葉を発す事が難しいので、いつも筆談で職員とコミュニケーションを行っています。

趣味は琉歌です。毎年新春の詩をつたい、季節の事や入所生活での出来事、施設行事の思い出を琉歌としてしたためています。今年の新春の詩は、ゆがぶで平和な世の中になりますようにとの願いを込め詠みました。



栄養士の おすすめレシピ

パイヤの煮付け

養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園
栄養士 高嶋 真理子

材料名	分量 (1人分)	1人分	82Kcal
・パイヤ	60 g		
・三枚肉	10 g		
・ニラ	2 g		
・ゆで小豆	10 g		
・玉ねぎ	10 g		
・昆布	2 g		
・しょうゆ	2 g		
・みりん	2 g		
・だし汁	20 g		



<作り方>

- ① 三枚肉をゆでて薄めに切っておく。
- ② 水でもどした昆布は結んで切っておく。
- ③ 生パイヤは皮をおき、種を除き一口に切って、軽くゆでておく。
- ④ 鍋に煮干し、結び昆布を八分どつり炊き、ゆでパイヤ、ゆで小豆、調味料を入れて中火で煮込む。

<一コマ>

現代人に不足しがちな、ミネラル・ビタミンを多く含んでおり、さらに生のパイヤのパパイン酵素は、肉・魚のタンパク質の分解酵素を含み、前菜で用いると消化を助け胃もたれがしません。

施設だより

砂川恵理歌さんミニライブ

重度心身障害児(者)施設 沖繩療育園
児童指導員 池原 英高



お招きし、「二粒の種」で有名なスマイル・シード・プロジェクトの一環としてミニライブを行いました。

その明るく元気な笑顔にパワーを貰い、透き通る歌声に皆じつと耳を傾け、中には感動して泣き出す利用者さんもいました。今まで行事が出来なかつた分まで楽しめた最高の一時でした。

その光景を見て、日々の支援は勿論のこと、長年施設で生活している利用者さんにとっては、行事の一つ一つがとても大切なものだということをあらためて実感しました。砂川恵理歌さん、本当に有難うございました。



クリスマス会

児童養護・知的障害児施設 漲水学園
児童指導員 兼島 章人

去る平成二十一年十二月十九日、当園陸寮にて、三十名の子供達と職員で盛大にクリスマス会を行いました。去年までは、陸寮、若葉寮二つの寮で合同で行っていましたが、今年は各寮での実施ということで準備・司会進行等を児童中心で行いました。クリスマス会では、マックスバリュ南店さんより児童一人一人にお菓子の詰め合わせ、ピザラ宮古店さんより、沢山のピザの寄贈があり、ケンタッキー、握り寿司と豪華な食事をみんなで楽しみました。

また、催し物では、高校生女子によるパネルシアター、小中学生女子のダンス、男子児童の朗読劇、豪華賞品が当たるビンゴゲームで、職員も子供達もおおいに盛り上がり、今年のクリスマス会も、終始笑いの尽きない楽しい会となりました。



ミニドライブに行ってきました

救護施設 いしみな救護園
生活指導員 我那覇 博明



去る二月九日、十六日と二つの班に分かれ、那覇市与儀にある与儀公園へミニドライブ(桜見学)を行いました。

参加した九日は、桜が満開し天候にも恵まれ、利用者は満開した桜を見ながら散歩したり、みんなで記念写真を撮るなど、良いお花見日和となりました。また、翌日からは「なはさくらまつり」という事で他施設の利用者も来ており、公園はにぎわいを見せていました。

二班の利用者が参加した十六日は、残念ながら雨模様の天気で散歩する事は出来ませんでした。飲み物を飲み、みんなで記念写真を撮るなどして過ごしました。

去年からインフルエンザが流行している事もあり、今年の初詣は中止となりました。久しぶりの外出行事に利用者からは「桜きれいだっだね」「楽しかった」という声が聞かれ、良いリフレッシュになったと思います。



合同誕生会と日課について

養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園
支援員 新井 克紀

当園では昨年末より恒例の行事の他に介護、養護棟合同誕生会が新たに加わりました。若い職員が中心となり企画、飾り付け、進行に積極的に取り組んでいます。利用者からの満足度も回を重ねるごとにアップして今後工夫をこらして定着して行けたらと思います。次に養護棟における日課ですがラジオ体操などの全員参加型とは別に一日の生活スケジュールの中で利用者ごとに洗濯たみや、食事の後かたづけ等の役割が有ります。これは普段の生活の営みの中で利用者同士が互いに個人の力量や性格を認め合い自然に生まれたことだと思えます。

今後、養護利用者の要介護増も懸念されますが利用者の自主性を大切に自分らしさが出せる園での生活を支援していきたいと思えます。

